

第22期学術の大型研究計画に関する マスタープラン(マスタープラン2014)



平成26年3月3日
科学技術・学術審議会総会

これまでの取組：

- 日本学術会議においては、前期（第21期）に大型研究計画のマスタープラン2010を提言。翌年小改訂。
- ・ 提言「学術の大型研究計画・大規模研究計画－企画・推進策の在り方とマスタープラン策定について」の公表（平成22年3月）
 - ・ 報告「学術の大型施設計画・大規模研究計画 マスタープラン2011」の公表（平成23年9月）

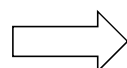
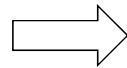
背景：

- ・ 「大型施設計画」の推進において、国民の理解並びに科学者コミュニティの合意を得るために、科学に基づく透明なアセスメントの必要性が高まったこと。
- ・ 「大型施設計画」を長期的かつ組織的に推進する仕組みが不十分との指摘。
- ・ 「大型施設計画」の他に、大規模研究基盤設備の設置、大規模データベース作製など「大規模研究計画」の実現を求める動き。

マスタープラン2010において、マスタープランを3年ごとに見直して策定することを提言。

マスタープラン2014の策定方針：

1. 学術の俯瞰・体系化に立脚した大型研究計画の策定
2. 科学者コミュニティの主体的な寄与によるマスタープランの作成
3. 学術的評価に基づく公平かつ公正な審査によるマスタープランの作成



方針に基づくプロセス：

- ・ 最初に「学術研究領域」の制定。
- ・ 各学術分野が必要とする大型研究計画を網羅する各分野に必須な「学術大型研究計画」を策定。
- ・ 次いで特に速やかに実施すべき「重点大型研究計画」を策定。
- ・ 「公募」方式の採用
日本学術会議会員・連携会員、分野別委員会、学協会と協力。
- ・ 日本学術会議分野別委員会等との連携
- ・ 利益相反の排除、高い透明性の確保

提言：

- ・国家的な大型研究プロジェクトの推進には、長期間にわたって多額の経費を措置する必要があるため、社会や国民の幅広い理解を得ながら、長期的な展望をもって戦略的・計画的に推進していくことが強く求められる。日本学術会議は、「日本の展望－学術からの提言2010－」の実現に向けて、新たに学術大型研究計画207件と重点大型研究計画27件を取りまとめ、マスタープラン2014として提案する。
- ・マスタープラン2014は、科学者コミュニティの総意として、日本学術会議が積極的に関与すべきとする方向性を具現化したもの。今後、科学者コミュニティは、大型研究計画の実現を通じて研究の発展を図り、我が国の科学技術の振興に貢献することが求められる。なお、学術全体の発展には、大型研究に馴染まない学術領域の貢献もきわめて重要。
- ・マスタープラン2014で策定された大型研究計画は、今後、科学技術立国を旨とする我が国の将来に資するために、国として計画的に措置されるべき。このため、大型研究計画が、国や自治体等の学術に関わる政策に速やかに反映されることが求められる。

(参考) 策定プロセス概要

